



泉だより

vol. 56

発行／医療法人 栄和会 広報委員会

2014.5月

平成26年度入社式

「地域住民のために一番ふさわしい医療・介護」

好天にも恵まれ桜咲く清明の中4月1日の栄和会入社式が行われました。

泉川欣一理事長より、私たちの医療環境、または介護環境に関して、今年は2年に1回の診療報酬改定がありました。また、4月1日より消費税8%に引き上げられ介護報酬も改定され、私たちはどのようにやっていけるだろうか悩む時期となりました。しかし本日、若々しいたくさんの仲間を迎え、より充実した医療・福祉・介護をこれからも進めていくことができることを大変嬉しく思っており、期待しております。診療報酬改定は分からない混沌な情勢にあります。私たちがやることは「地域住民のために一番ふさわしい医療」「一番ふさわしい介護をやる」ということです。



「地域住民を支えて行く、支える医療・支える介護が、私の今年の目標です。」こういう考えの中で毎日毎日を切磋琢磨して医療・介護をしていくつもりです。若い皆さんは先輩たちの技量を学び指導を受け、仲間として仲良く社会生活を歩んでいただければ大変嬉しく思います。これからは健康に十分注意しながら新たな社会の中で活躍して下さることを期待しますとのことのお祝いの言葉を贈られました。その後、新入社員を代表して児玉恵莉奈さんより「これから始まる社会人として日々のことを思うと希望に満ち溢れ、決意を新たに引き締まる思いを実感している次第です。しかし社会人としても、職員としても慣れない仕事で迷惑をお掛けし、足りないところだらけではありますが、やる気はありますので厳しくとも温かいご指導をよろしくお願い致します。」と抱負を述べられ式は終了しました。

新任医師紹介



北山 素 医師（消化器内科）

4月から消化器内科として赴任してきました、北山素と申します。地域医療に貢献でき、皆さまの消化器を守るよう頑張りますので、宜しくお願い致します。

泉川公一先生

長崎大学医学部教授就任おめでとう!!

（最終ページへ掲載）

第23回 九州トランスラディアル研究会

LIVE Demonstration Shimabara2014開催

平成26年3月7・8日の2日間、Course Director 泉川病院副院長矢加部和明先生のもと7日、ホテルシーサイド島原にて『サテライトシンポジウム』、8日、島原文化会館にて『ライブデモンストレーション』が開催されました。

現在、欧米化の食生活が進み、脂質・動物性たんぱく質・砂糖摂取量の増加、ビタミンミネラル・食物繊維摂取減少により、心臓・脳血管疾患患者が増加傾向にあります。島原半島では、脳卒中（脳梗塞・くも膜下出血等）は県立島原病院、心臓血管疾患（狭心症・心筋梗塞等）を当院が主に担当し、島原半島の医療を支えています。

当院の心臓血管疾患（狭心症・心筋梗塞）の検査・治療方といたしましては、おもにカテーテル検査を行っています。カテーテル検査とは、足のつけ根の血管や、手首の血管からカテーテル（ストロー状の筒）を挿入し、心臓の筋肉に血液を供給している血管である冠状動脈を検査・治療をおこなうことです。

九州トランスラディアル研究会とは、そのカテーテル検査を患者さん負担軽減のために、手首の血管から行うことを推奨する循環器医師の研究会であります。今回はオペレーターに、世界的に有名な湘南鎌倉病院副院長齋藤滋先生・野崎徳洲会病院奥津匡暁先生・横浜市立大学附属病院菅野晃靖先生・当院からは、副院長泉川卓也先生が、全国の医師・コメディカル注目のなか、最先端の技術・知識を駆使した心臓カテーテルによる治療ライブデモンストレーション（心臓カテーテルによる冠状動脈の治療をリアルタイムで会場に上映し、全国の医師・コメディカルの先生方と盛んなディスカッションを行いながら治療をする会）を行いました。御参加頂いた多くの医師・コメディカル・当院職員の技術・知識を交換することにより、さらなる医療の質の向上に役立つ会でありました。このような機会を大事にし、長崎県・島原半島における循環器医療・救急医療のさらなる充実に貢献できたと思います。



また7月には、毎年恒例の第5回 IZUMIKAWA LIVE 2014が開催されます。職員一同気持ちを引き締めてより良い医療を目指し邁進していく所存であります。

最後になりましたが、御多忙の中、九州トランスラディアル研究会 LIVE Demonstration Shimabara2014に御参加いただいた医師・コメディカルまた御協力頂いた医療関係者の方々、厚く御礼申し上げます。今後とも九州トランスラディアル研究会・泉川病院共々、宜しくお願いいたします。

カテライブ実行委員長 時津 直史・塩田 丈裕



職 場 紹 介 介護老人保健施設フオンテ



病院と在宅との中間施設である当施設は、病院と併設であるため医療依存度が高い方が入所されております。しかし本来、リハビリを頑張り1日でも早く家庭復帰出来るように応援する施設ですので入所者様の安全を守りながらお世話させていただいております。又、入所者様が入所生活を楽しく過ごして頂くために、曜日ごとのレクリエーションや深江港を眺めながらの植物栽培、運動会や敬老会の季節に応じた行事を行い楽

しく過ごして頂いております。入所者様のケアに関しては栄養士やリハビリスタッフ等他職種と連携をとりながらケアを行っています。今後も日常生活において、異常の早期発見に努め医療機関との連携を行い「安全・安心」に入所生活を送ってもらえる様に、スタッフ一人ひとりが真心を込めてケアを行って行きたいと思っています。

表彰

永年の功績として「南島原警察署長」と「長崎県学校保健会」より感謝状と表彰状を贈られました。



栄和会職員 感染症研修会 3月12日 ふるさと伝承館



大正富山医薬品㈱の白水洋子先生に「標準予防策」についての講演をしていただきました。

医療現場で働く私たちにとって感染予防は大変重要なことであり、その中でも手指衛生に関しては講演の中で言

われたように「**手指衛生なくして感染対策なし**」手洗いは感染予防策として最も基本的で、最も重要な手技であること、とても簡単に思える手洗いが感染予防で一番大切であることを理解することができました。

実際に数名に協力してもらい、手洗い前後を「手洗いチェッカー」で実施し手洗いが不十分という結果でした。手洗いに単に時間をかけるのではなく、ポイントを押さえて実施することが重要である。また医療現場において主流であるアルコール消毒も同様で、実施するタイミングと適切量が重要であるので今後の予防策として役立てていかなければならな

いと思いました。

个人防护具（手袋・エプロン）の脱着順番も間違えると予防策にならないことを改めて再確認することができました。

私たちは感染拡大を起こさないために感染予防策を理解し、ポイントを押さえタイミングを間違えないようにし、いつでも感染の媒介者になり得ることを理解し感染対策に取り組んでいかなければならないと再認識できる研修会でした。

研修会で学んだことを現場で活用し、今後の感染予防対策に全職員で取り組んでいきたいと思います。

感染委員：川田 歩



いきいき健康教室のご案内

私たちは生活習慣病予防を目的に、毎月健康教室を開催しています。医師・看護師・薬剤師・理学療法士・栄養士から毎月異なるテーマでお話ししています。ご自身の健康のため、お役に立てる内容になっていると思いますので、興味をお持ちの方はぜひご参加ください。たくさんの方のご参加をお待ちしています。

※ご希望、ご相談がありましたら外来看護師へお尋ねください。

5/17(土)	11:00～	ドック室	メタボってなに？	～看護師より～
			太るも痩せるも食事が基本	～栄養士より～
6月未定	11:00～	ドック室	狭心症ってどんな病気？	～循環器医師より～
			おいしく減塩	～栄養士より～
7月未定	11:00～	ドック室	毎日続ける運動療法	～理学療法士より～
			運動と栄養について	～栄養士より～
8/16(土)	11:00～	ドック室	体調不良時の過ごし方	～看護師より～
			熱中症を予防しよう	～栄養士より～
9月未定	11:00～	ドック室	糖尿病について	～腎臓内科医師より～
			外食の摂り方のこつ	～栄養士より～

※詳細は毎月病院掲示板にてご案内しておりますのでご覧ください。

※参加費用がかかります。個人様で多少変わりますのでご相談ください。

※5月の教室はご希望の方のみ食事があります。（食事代324円（税込）がかかります）

担当：生活習慣病対策チーム 別府

新人紹介



医事
吉岡 祐衣



医事
柴田 茜



メディカルクラーク
本多 由佳



理学療法士
吉田 健人



理学療法士
児玉恵莉奈



作業療法士
児玉真莉奈



臨床工学士
松本 雄



看護
松本 悠里



看護
松本 章秀



看護
永石 有喜



看護
濱田由香梨



看護
佐藤 滉大



看護
林田 紗希



介護
藤本 大史



介護
藤原 雄二



看護
長橋 晴美



介護
隈部 普雄



介護
石田 梓



介護
長谷 愛



介護
山本紗容子



介護
松崎 悦子



託児所
江崎 桂子



託児所
稲田 繭子



託児所
森本里奈子



経理
横田 諒



看護
熊谷 友紀



放射線技師
相川 芳護



看護
草野 洋子



介護
竹田 夕貴



介護
高木 彩佳



調理員
小松康一郎

社内研修旅行

国内編



湯布院 2月18日～19日

研修旅行で湯布院へと行ってきました。昼食の「花やしき」では、専務お勧めのステーキランチを堪能し、その後鳥栖アウトレットでショッピングを楽しみ、いざ由布院へ。大分道のトンネルを抜けるたびに雪が真っ白になっていきました。数日前からの大雪で、通行止めの心配をしましたが、なんと通行可能という奇跡。旅館に到着すると、早々に外へ出て雪で遊びました。露天風呂は寒さに勝てず今回は見送りました。二日目は湯布院を散策し、トリックアート美術館で遊び、島原への岐路へつきました。職場ではなかなかお話をする機会のない方とも接することができ、楽しい研修旅行となりました。この繋がりを日々の業務に活かしたいと思います。理学療法士：大久保真里

別府 2月22日～23日

待ちに待った家族全員での研修旅行!! 週末のプランであり、子供たちの学校予定もなく、体調も万全で出かけることができました。雪の残る由布院を散策したあとは、別府湾を眺望できる杉乃井ホテルでゆっくり温泉に入り、心も体もリフレッシュできました。アミューズメントも豊富で自由時間も多く家族の思い出をたくさん作ることができ、とても有意義のある旅行になりました。

次の研修旅行を楽しみにして仕事に励みたいと思います。ありがとうございました。

看護師：吉永 みえ



医療法人 栄和会では、職種や部署の規模に応じて、全員が研修旅行に参加できるように、日帰りプランから海外旅行までを、計画実施しています。当院の仲間になって次回の研修旅行に参加されませんか？
新しい仲間を、お待ちしております。

看護師の仲間を募集中

連絡先：(0957)72-2017

人事採用担当者 管理部 岡本

乳がん検診を受けませんか

乳がん検診の受けやすい環境作りとして、乳がん検診（個人検診）のクーポン券の販売と、土曜・日曜乳がん検診を行います。ぜひ、あなたとあなたの大切な人のために乳がん検診を受診していただきたいと思います。

乳がん検診 （個人検診）

クーポン券：料金 3,500円（通常 4,200円）

●使用可能期間：ピンクリボン月間（10月中）または受診者様の誕生日

●検査内容：マンモグラフィ+乳腺エコー（女性技師対応）

●このクーポン券は泉川病院のみで使用可能です。

●土曜日の乳がん検診を午前中のみ行います。（不定休）

●日曜乳がん検診実施日：H26年6月29日、10月19日、2月1日、2月22日

●利用可能な検診種類：市のがん検診（南島原市・雲仙市）・無料クーポン・個人検診

●検査項目：マンモグラフィ・乳腺エコー・視触診（マンモグラフィと乳腺エコーは女性技師が対応）

事前予約が必要です。ご不明な点はお問合せください。▶TEL 0957-72-2017（担当：検診室）

土曜・日曜 乳がん検診

泉川公一先生

長崎大学大学院医歯薬学総合研究 感染症免疫学講座臨床感染症学分野 教授就任祝賀会



教授就任祝賀会・挨拶

泉川 公一

昭和63年4月私が長崎大学医学部に入学した時に、泉川病院が開院いたしました。両親が病院を建てる計画をしている時、ちょうどその横で受験勉強していました。ブレッシャーもありましたが、なんとか合格し医学部に入ることができ、医学部を卒業し約20年がたち、まさか今こういう立場になるということは夢にも思っておりませんでした。

呼吸器の感染症分野で勉強させていただいて仕事をしています。

長崎県は人口10万人当たりの感染症罹患率が日本で一番多い県であります。特に島原半島は肺結核患者が非常に多い土地柄であります。感染症分野としては、きっちり仕事をしなければならぬということでもあります。

感染症という意味では、長崎大学はある意味、日本で一番有名な診療科であります。私はたくさん先輩方に育てていただいて仕事を一生懸命やってきましたが、教授という立場に立つて考えますと、ある先輩から言われたんですけれど「長崎県の感染をしきるといことは日本の感染症の総本山のトップである」と言われ、最初はあまりピンときませんでした。周りの先生たちから色々お話を聞くにつれて責任のあることだと、最近ようやく感じるようになりました。

医師としては祖父や父の背中を見て育ち、患者さんを大事にすると言うことを第一に考え今までやってきました。これからはもっと大きな仕事ができるよう努力したいと思っております。普通の勤務医として出来ることは限られますが、役人というポジションに付きますと勉強して若手を育てて、皆さんの役に立つような仕事を出来るという意味では非常にありがたい職をいただいたと思います。学生をしつかり育てて長崎の医療、特に得意分野の感染症と言うところで、まずは長崎県全体に貢献できたいと思います。そういった仕事に携わっていききたいと考えています。

こういったチャンスを頂いたのは、この泉川病院というホームグラウンドがあったからだと思います。皆さんは

おそらく大病院の先生はわりと裕福な生活をして楽しくやっているんじゃないかと思っている方も多いと思いますが、実はそういうところではなく、大学は薄給であります。多忙な所でもあります。なかなか生活も苦しいといったところで、両親や弟の卓也医師のサポートを受けながら仕事に邁進出来たというののも一つのおおきな背景になったと思っています。言うなれば、ここにいらっしゃる皆さん・泉川病院の職員の皆さんが普段から地域のために一生懸命仕事をして頑張っているということ、これが私の研究生活、大学での診療に従事できたものと思っています。こころより感謝申し上げます。

父（院長）や弟（卓也医師）には現場で、しっかりと医療をやって頂き、私は少し違った視点からもっと大きな仕事をして、地域に貢献できればと考えています。

退官するまで約20年あります。その間に何が出来るかチャレンジしてみても、いい仕事ができるようにがんばって行きたいと思っています。

新しい門出という所でこういったお祝いをしていただいてありがとうございます。

最後に私がこのような立場になったのも、両親、妹、弟、親戚、なかでも家庭を守り3人の子供を育ててくれている家内の助けがあったからこそだと思っています。

これからは感染症学のリーダーとして大病院で研鑽し、また家庭を大切にしながら仕事を続けていきたいと思っています。今までは帰れない日々もありましたが、これからは少しでも改善して家族を守っていければいいと思います。

私は大学からサポートします。父も卓也医師も頑張っていくと思います、皆さんの協力が必要でありますので、ご理解して頂き地域医療を支える上でも頑張ってもらえれば幸いです。ありがとうございます。よろしくお願ひします。

有難うございました。



息子さんより花束贈呈